

# 城陽市障がい者自立支援協議会

## 第1回 聴覚言語障がい支援部会報告書

報告者 部会長 障害者生活支援センターはーもにい（聴覚担当） 山崎 伸治

標記について下記のとおり報告します。

日 時	平成23（2011）年7月8日
場 所	城陽市役所 第1会議室
出席者	城陽市福祉課 相談支援事業所・はーもにい 手話通訳者の会、要約筆記奉仕委員会、手話サークル「てまり」、手話サークル「めだか」
検討課題	部会運営のあり方 「聴覚言語障がい支援部会」について説明 専門部会で協議すべき課題について

### 【議事録】

1. 自己紹介
2. 聴覚言語障がい支援部会の運営・概略について
3. 今後の部会で協議したい課題・内容について
  - (1) 障がい当事者・一般市民への啓発
    - ・当事者団体等に加入している人は支援や情報が届きやすいが、加入していない人の中には利用できる制度や情報を知らない人もあり、情報提供のあり方はどうあるべきか。
    - ・事前に聴覚障がい者からの申し込みがなければ手話通訳、要約筆記はつかないことが多い。他市では成人式、敬老会など市主催の行事であれば対象者の有無に関わらず手話通訳、要約筆記など情報保障が付いている例もある。
    - ・行事や講演会などに手話通訳や要約筆記が付くことで、「こういう情報保障を必要とする人がいる」ことを広く市民に知ってもらおう。
  - (2) 聴覚障がいの特性に対する理解
    - ・聞こえない障がいから起こるコミュニケーションのストレスや疎外感から周囲との人間関係が困難になる人が見られる。そういう感覚障がいの特性について支援者が理解を深めることも必要。
  - (3) 関係機関のネットワーク作り
    - ・当事者団体の抱える課題を誰がどう解決していくか、部会に当事者も参加してもらい検討する。
    - ・当事者、支援者、インフォーマルな資源との連携などネットワーク作りを目指す。
  - (4) 聴覚障がいを持つ子どもへの支援について
    - (支援の対象は成人だが)聴覚障がいを持つ子どもの幼少・学童期の支援や教育の課題は大きいので、宇治支援校のスーパーサポートセンターや府の南部難聴幼児サポートセンターを見学し研修する。